

鈴木 太郎 ＊ 選

一般の部「自由に四季を詠んだ作品」 ◎入選

どの皿もパセリを残し宴果てる
芝庭にトランポリンや夏の雨
頭文字太く書きたし白い茄子
萩こぼる午後のひととき芭蕉読む
曾良の背な見守る翁百日紅
夫の死は遠ざかりゆく断腸花
死せる友の野球日誌や魂送
初写真祖父まぎれなき片えくぼ
秋麗の八十路の道は知足なり
空堀や朴の落葉に足のせる
柏手の杜にこもりてやゝ寒し
琴の音を笛が追ひかけ夜の秋
野に立てる吾も一草や虫時雨
涼しさや石の仁王の古き宮
駒下駄の二枚齒輕し宵祭
節分や鬼も園児も豆を投げ
リハビリの汗拭くタオル重くなり
湖底より雲湧くごとし夏の果
夏の夜きしむベッドに蟬の声
小峰城清き遺風と鰯雲

一般の部「白河を詠んだ作品」 ◎入選

弾痕の戊辰を語る秋の城
似て非なる余白空白吾亦紅
提灯を吊つて白河秋祭

矢吹町 納谷 一光

静岡県三島市 白 央 子

柳津町 泰 花

埼玉県小川町 寺 澤 弘 忠

白河市 小 林 富 子

岐阜県郡上市 海 神 瑠 珂

白河市 久 保 田 直

いわき市 桂 香

埼玉県桶川市 若 林 朝 子

福島市 田 中 須 美 子

神奈川県横浜市 佐 野 良 彦

矢吹町 印 田 弘 司

須賀川市 伊 豆 周 治

栃木県大田原市 小 滝 威

白河市 大 平 茂 勝

白河市 北 川 信 弘

白河市 佐 藤 和 子

白河市 佐 々 木 拓 音

白河市 長 島 怜 魅

鰯大根作り孫にと看護寮

阿武隈の風を孕ませ投網打つ

野茨の花の横にて身を正す

湖風が秋風となり野を渡る

青葙や湖の彼方の街明かり

那須の峰映す南湖の花筏

春を待つ関明神の常夜灯

梅の花乾いた風に揺れている

団子屋で南湖眺める盆休み

松の芽や南湖に朽ちし杭頭

新秋の湖畔に香るカプチーノ

白河の城に寄せ来る青嵐

囀りの懐に入る関の杜

五月闇ヴァーミリオンを使う画家

桜咲く城に残りし弾のあと

関山の鐘の音涼し南湖かな

大花野に溺るる句碑や古関跡

海外の部 ◎入選

冬日和つがひの小鳥むつまじき

移り来て終の住処や墓洗ふ

芍薬の撫でまわしたき蕾かな

移民とふ過去立上る移民の日

悲しみは時に癒されサビア聞く

柳津町 泰 花

矢吹町 木 戸 和 男

栃木県大田原市 飯 島 健 司

埴町 神 永 秀 郎

矢吹町 印 田 弘 司

神奈川県綾瀬市 文 吾

栃木県那須町 山 崎 綾 子

鏡石町 横 川 心 優

鏡石町 黒 澤 陸

白河市 北 川 春 子

白河市 岡 部 赤 崩 山

矢吹町 柏 木 康 男

会津若松市 新井田 美 佐 子

白河市 鈴 木 若 菜

須賀川市 近 江 美 以 子

白河市 橋 本 和 昌

愛知県東浦町 伊 藤 京 子

伯 サンパウロ州
イタベセリカ・ダ・セーハ市 山 畑 嵩

伯 サンパウロ州
サンパウロ市 吉 田 し の ぶ

米 マサチューセッツ州
マシユールズベリー町 宇 佐 美 好 子

伯 ペルナンブーコ州
ボニート市 佐 藤 け い 子

伯 サンパウロ州
サリベライン・ピレス市 中 馬 和 子